

「次世代半導体製造拠点取水可能性調査事業委託業務」
第2回有識者懇話会 議事録

日 時： 令和5年（2023年）9月7日（木） 10:00～11:10

場 所： 第2水産ビル 4F会議室

出席者： 別紙「出席者名簿」のとおり

議 題： 1. 水源候補地の抽出（案）
2. 水源候補地の評価方法（案）
3. 今後の検討スケジュール

議 事：

（1）議題1

ア 事務局から資料説明

〔特記事項〕

・資料1のp.4～p.10（議題1）について説明

イ 質疑応答（有・無）

○構成員

この議論の中身は公表されるのか。されるとして、どういうレベルでされるのか教えていただきたい。

○事務局

本日の懇話会の結果はブリーフィングで報告します。

レベル感については、個別の企業情報に触れない範囲で、出来るだけ広く道民の皆様にお知らせしたいと思っています。

○構成員

今回の抽出地点のなかには、最初からあり得ない候補が入っている気もする。

近隣で行われている水利用の現状から、まずは抽出したという理解でよいか。

○事務局

関係する皆様と調整しながら、有力な候補地を含めてあらゆる可能性をテーブルの上に並べて検討しました。

○構成員

千歳川の「流量に余裕がない」とは、どの程度なのか。取水は現実的に可能なのか。

○事務局

かんがい期に厳しい状態が散見されていますが、全くない訳ではありません。検討の余地はあると考えています。

○構成員

安平川の「未売水量の一部」とは何ですか。

○事務局

工業用水道の未契約の一部を供給できるのではないかと、ということです。

○構成員

今の検討結果は改めて調査をしたのではなく、既存資料のなかで検討しているということですね。

○事務局

そうです。

○構成員

一般の人は 2027 年までの量産体制に向けて事業が始まっていると受け止めていると思う。水を取るのほどこも厳しい状況のなかで、自然環境に関しては本当にこれで良いのか心配である。

○事務局

これまでにない規模とスピードで走りながら検討を進めており、その上でご意見を頂いていることは、重々承知しております。

○構成員

そうしないと、前に進まないのだと理解している。

千歳川と安平川では水質が異なるが、それを浄化して使うのか。

また、排水する時の水質はどのような状況なのか。

○事務局

取水については、工場内で一定の処理を行うことになります。

また、美々ワールドにおいて、排水は下水処理場を経由すると聞いており、下水処理場に流すには基準値が定められています。

○構成員

下水処理場で処理されるということですね。

○事務局

そうです。

○構成員

北海道バレー構想もあるなか、2027 年の量産開始より後に水を使う企業誘致に対して、問題にならないのか。

また、胆振東部地震も踏まえて自然災害に対するレジリエンシーという観点で、量産開始のみならず、先を見越してベターとなる検討をするべきかと思う。

○構成員

今の意見は大変重要だと思います。

2027 年のスナップショットで切り取っても余り意味がない。その後も持続可能な発展があって、はじめて意味がある。

○事務局

当然、関連する水需要はあると思います。ただ、現時点では、どの時期にどのくらいの需要があるかは解らない状況です。

道としては、半導体関連産業のビジョンを検討していくなかで、関連産業の水需要も考えながら検討を進めていきたいと思っています。レジリエンシーという視点は設備投資も関係するので難しい課題ですが、考えていきたいと思っています。

○構成員

この懇話会では、量産開始までに何が出来るという議論だけではないことを示していく必要がある

と思います。

○事務局

そういうご指摘を踏まえて対応していきます。

(2) 議題2

ア 事務局から資料説明

[特記事項]

・資料1のp.11～p.13（議題2）について説明

イ 質疑応答（有・無）

○構成員

この評価項目に異論はありません。ただ、検討に当たっては、量産開始までだけの評価した形にしないで欲しい。

例えば、想定される周辺の産業集積への影響やレジリエンスの視点を加えられないかと思う。他の評価と同レベルでの検討は難しいと思うので、項目を追加して欲しいという意見ではない。

○事務局

おっしゃるとおりだと思いますので、将来のことも含めた総合評価にしたいと思います。

○構成員

将来の展開可能性を踏まえてもベターであると言える、個人的には良いと思う。

○事務局

ご意見を踏まえまして、検討したいと思います。

○構成員

評価に当たっては、優劣を付ける必要はないと思いますので、量産開始時はこれ、長期的にはさらにこれという選択肢があるのではないかと思います。

○構成員

候補地を評価するために、新たな調査や検討を行うと考えていたが、今までの資料から評価することなのですね。

○事務局

環境に関しては既存資料で評価をすることになりますが、事業費や工期等については精度を高めて検討できると考えています。

○構成員

一番心配なのは将来のことです。経済を動かす事業は自然環境に色々な面で影響を与える場合が多いので、本当は予測が出来れば良いと思います。

○構成員

本来は私も時間をかけてやるべきだとは思っています。

○構成員

将来の地球温暖化等を考えると、独自の水源で対応するのが一番だと思いますが、時間の制限があるなかで、今回はこれでやるしかないと思います。将来のことを見据えた観点からは、安定して取水できる水源を考えることは提言できると思います。

○構成員

環境影響を評価する当たり、これくらいの項目が必要なのは理解しますが、具体的なデータがない中で判断するのは難しいと思います。この懇話会に何が求められているのでしょうか。

○事務局

今回は評価の方法を議論いただきました。

評価項目は事務局が埋めていきますので、専門分野やご関心があるところのご意見をいただくことになると思います。優劣をつけるのではなく、評価の補強や、課題が残っている点のコメントを付け加えることが懇話会の結論ということになります。それを受けて、関係機関と協議を行い、実際に水の確保に向けて取り組みを進めていこうと考えています。

(3) 議題3

ア 事務局から資料説明

〔特記事項〕

・資料1の p. 14～p. 15（議題3）について説明

イ 質疑応答（・無）

○構成員

次回の懇話会までに、事務局で評価項目の比較表のようなものを作り、2つの水源候補地のメリット・デメリットを解るようにしていく。

それに対して、優劣を付けるという訳ではなく、2つの水源の取水可能性に関する構成員からの意見が、最終的に公表されるということですね。

○事務局

はい、そうです。

（以上をもって議事は全て終了のため、進行を事務局に戻す。）